

備前市事務事業評価表

(平成17年度事業)

事務事業名	加子浦歴史文化館管理運営事業	コード	担当課係	加子浦歴史文化館
		03-03-01-03	担当者	村上 節子
事業実施期間	昭和46年から			
総合計画 事業(政策)体系	大項目	地域文化と人が輝くまちづくり		
	中項目	歴史と文化の輝くまちづくり		
	小項目	文化芸術の振興		
	施策	文化施設の適正な管理運営		
		電話	0869-72-9026	

事業について	
目的	①郷土に関する歴史・民俗・文芸資料の収集と保存に努め、それらを後世に伝え、遺す。 ②①で収集した資料をもとに常設・企画展示を行い、文化的向上及び調査研究の一助た ることを目的とする。
対象 (誰のために)	備前市の歴史・文化に興味、関心のある人。資料寄託者。
内容	企画展開催にむけた資料の発掘と収集に努め、郷土に関する学習の場を提供する。また、歴史・文化に興味と関心のある市民のニーズに沿った文化講座や歴史講座を実施し、調査研究の一助としてもらう。

事業の結果							
実施項目	17年度						
	回数など	(単位)		回数など	(単位)		回数など
企画展の入館者数	1,504 人						
企画展の開催日数	169 日						
開催講座の参加者数	58 人						
	人						
事業費 (単位:千円)	事業費	財源	事業費	財源	事業費	財源	
	直接事業費 5,940	国庫補助金等 0	直接事業費 10,150	国庫補助金等 0	直接事業費 5,940	国庫補助金等 0	直接事業費 10,150
	人件費 10,150	受益者負担 0	人件費 497	受益者負担 0	人件費 0	受益者負担 0	人件費 0
	市債 0	市債 0	市債 0	市債 0	市債 0	市債 0	市債 0
合計	16,090	一般財源等 15,593	合計	0	一般財源等 0	合計	0
必要人員	2.15 人						
結果指標①	結果指標名	入館者総数					
	結果指標量	2756(内1504は企画展時入館者)					
	単位	人					
	対前年比	#VALUE!					
	事業費	5,940,000 円					
単位当たりコスト①	2,155 円						
結果指標②	結果指標名	文化講座の参加者数					
	結果指標量	58					
	単位	人					
	対前年比	0.00%					
	事業費	20,000 円					
単位当たりコスト②	345 円						

事業の成果			
成果指標名	入館者数及び講座参加者数	式又は説明	入館者数+講座参加者数
	17年度		
成果指標量	2814人(内企画展入館者数は1504)		
対前年比	#VALUE!		
到達目標値	3000人	到達目標年度	20年度

事務事業の評価		課題認識
目的・対象・内容の妥当性評価	目的の妥当性	地域住民が参画した文化講座を目指しているが、幅広い年代の学習者に参加してもらえるよう努める必要がある。
	対象の妥当性	
	市民ニーズの妥当性	
効率性の評価	市の関与の妥当性	コスト削減については、光熱費等の節減に努めなければならない。また、事業の効率性からいえば、常勤職員が一名のため企画展事業も年3回実施から1~2回しか開催できなくなると予測される。常勤職員1名と週3日勤務の臨時職員1人、あとはシルバーで補うという現在の体制を、常勤職員2人の配置に改める必要がある。人件費が割高になるのはこの人員配置に原因があると思われる。
	コストの効率化	
	手段の最適化	
有効性の評価	職場の効率化	東備を訪れる観光客の数が年々減少しており、当館の利用者もそれに比例して減っている。しかしPRの方法を考えれば、改善の余地は充分あると考えられる。
	目的達成度	
	成果向上の可能性	
市民参画度		

総合評価		評価区分
コメント	地域住民からのニーズが少ないとされていた文化講座であったが、内容や会場を改めたり変更したことでますますの結果を得ることができた。	<A~E> C

今後の方向性			
<input checked="" type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する		<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する <input type="checkbox"/> 完了・統合	
翌年度	結果指標量①	3000人	結果指標量②
目標値	成果指標量	3000人	100人

改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
効率性	常勤職員を1名増加	19年度	職務の分化により、事業の効率性が上がる
有効性	郷土に在住する歴史・文化の愛好家を見だし、事業に参画してもらう	17年度から恒久的に	事業効果の浸透
妥当性	ボランティアの事業への参画を促進する	18年度より	事業効果の浸透と事業コストの削減

事業の目的、対象、内容を考えながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である結果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。